

科目名	生理学	科目分類	□基礎教育科目 ■専門教育科目
		開講年次	■卒業必修 ■栄養士必修 □選択
英文表記	Physiology	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
ふりがな	ひろ かわ ただ お	授業形態・修得単位	講義・2単位
担当教員名	廣 川 忠 男	実務家教員担当科目	
授業のテーマ	人体諸器官の生理学的特徴（機能）について理解する。		
授業概要	本講では、主として人体の生理学を扱う。お腹がすけば食事をする。のどが渴けば水を飲む。ごく日常の行動にも、体内においては情報の伝達と認知など多様な生理的機構が関係している。生理学では、ヒトの体内における生命現象がどのようなメカニズムによって行われているかについて学んでいく。		
到達目標	人体の生理機能に関する知識を習得するとともに、生体の恒常性の維持についてその原理を理解したうえで説明ができる。		
授業時間外の学習	授業の前にテキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理して臨むこと。解剖学・生化学・病態生理学などとの関連性を意識して学習すること。常に復習（週に最低60分程度）を心がけ、わからない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなどして理解に努めること。		
履修条件	基礎教育科目の「生物学」と併せて受講することが望ましい。		
授業計画			
第1回	テーマ：生理学で学ぶこと（生理学とは/生体機構のモデル化）		
第2回	テーマ：骨の機能（支持/保護/運動/造血/貯蔵/リモデリング/骨の成長と発生）		
第3回	テーマ：筋の収縮（等張性収縮/等尺性収縮/収縮の基本形/神経支配と神経伝達）		
第4回	テーマ：中枢神経系の生理機能（大脳/間脳/脳幹/小脳）		
第5回	テーマ：末梢神経系の生理機能（脳神経/脊髄神経/伝導路/脊髄反射/自律神経）		
第6回	テーマ：血液の働き(1)（運搬/止血作用）		
第7回	テーマ：血液の働き(2)（緩衝作用/体液の恒常性維持）		
第8回	テーマ：心臓の生理（心音/心拍の調節/心電図/刺激伝導系）		
第9回	テーマ：血管の生理（血圧/脈拍/血管運動の調節）		
第10回	テーマ：免疫の仕組み（体液性免疫/細胞性免疫/能動免疫/受動免疫）		
第11回	テーマ：消化と吸収の生理（咀嚼/嚥下/消化管運動/消化液/吸収/肝臓の機能）		
第12回	テーマ：呼吸の生理（ガス交換/腹式呼吸/胸式呼吸/呼吸運動の調節）		
第13回	テーマ：腎臓の機能（腎小体・尿細管の機能/クリアランス/レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系）		
第14回	テーマ：ホルモンの機能（各種内分泌器官とホルモンの作用）		
第15回	テーマ：生殖の生理（生理周期/視床下部/脳下垂体前葉/生殖腺刺激ホルモン/卵巣ホルモン）		
第16回	定期試験		
テキスト	山本敏行ほか：「新しい解剖生理学(改訂第12版)」南江堂 2010（生理学と共通テキスト）		
参考文献・資料	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験により評価する。		
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	1年生：火曜日、16:20~18:00、 2年生：火曜日、9:00~10:30		
受講生に望むこと・受講のルール	毎回の出席カードで質問を受け付けるので、その疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。授業には積極的な姿勢で臨んでほしい。講義回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、期末試験の受験資格を失うので注意のこと。		